

日本アジア投資株式会社  
2020年3月期 期末  
決算補足資料

決算発表日：2020年5月15日

(ご注意) 本資料に記載された事項は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。本資料に含まれる意見や予測などについては、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご留意下さい。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。なお、本資料内の業績数値は全て従来連結基準にて表示しております。

いつもお世話になります。日本アジア投資株式会社 代表取締役社長の下村でございます。

2020年3月期の期末決算につき、ご説明いたします。

目次		 JAIC
1. 総括		P3
2. 2020年3月期の実績（前期比較）		P4
3. 中期経営計画の進捗状況		P9
4. 2021年3月期の事業方針と業績予想		P15
5. 営業活動の状況		P23
6. 参考情報		P32

（ご注意）本資料内の業績数値は全て従来連結基準にて表示しております。

日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料（2020年5月15日 発表） - 2 -

本日まで説明するのは、このうち1番から4番までです。

なお、当社では、ファンド連結基準と従来連結基準の2つの連結数値を開示していますが、ここでは従来連結基準でご説明いたします。

### ✓ 2020年3月期の実績（前期比較）

- 営業収益27億円、最終利益3億円（前期比11.5%増収、47.7%減益）
- 特別利益の反動減による減益、評価損の減少やプロジェクト投資からの利益が増加したが補えず

### ✓ 中期経営計画の進捗状況

- 最終利益の期初見込達成率60.5%、株式売却益が大幅に下振れ
- プロジェクト投資資産を売却して株式売却益の下振れを補う構図が続くため、新規投資実行を進めているが、残高や含み益の増加が遅れている
- 戦略投資は順調に進捗、計画2年目で残高10億円の目標達成

### ✓ 2021年3月期の事業方針と業績予想

- 新型コロナウイルス感染症の影響は、現段階で顕在化しているものは限定的
- 今後の影響が限定的との前提で、営業収益32.5億円、利益1.8億円を目標とする
- プロジェクト投資は、物流施設などの短期売却を前提としたプロジェクトと、障がい者施設、バイオガス発電などの長期保有を前提としたプロジェクトの最適な組み合わせを行う

まずは全体の総括です。

2020年3月期の実績は、前期と比較して、11.5%の増収となりました。一方で、利益は47.7%減少しています。増収の要因は、メガソーラープロジェクトの売却件数が増加したためです。減益の要因は、特別利益の反動減によるものです。評価損の減少やプロジェクト投資からの利益が増加したものの、反動減の全てを補うことはできませんでした。

中期経営計画の進捗状況は、期初の見込みに対し当期の利益の実績は、60.5%の達成率となりました。その原因は、株式売却益が見込みを大幅に下回ったためです。メガソーラープロジェクトを売却して下振れの一部を補いましたが、期初の業績見込みの達成には至りませんでした。株式売却の下振れは、前期と当期の2年間に亘り、これをメガソーラープロジェクトの売却で補ってきました。プロジェクトへの投資実行を進めていますが、その残高や含み益が、メガソーラープロジェクトの売却があり、見込み通りに増加していません。一方で、戦略投資は順調に進捗しています。残高を10億円まで増加する目標を、計画2年目で既に達成しました。なお、ここで言う戦略投資とは、プロジェクト投資のパートナー企業へ投資を行うことを指します。

2021年3月期については、後程新型コロナウイルス感染症の現段階に於いて想定されるリスクについてご報告させていただきますが、現段階で顕在化しているものは限定的です。業績見込みについては、営業収益32.5億円、利益は1.8億円という数値を掲げさせていただきます。この数値は、今後も新型コロナウイルス感染症の影響が限定的であるという前提のもと、投資資産の売却で最大限の成果が上がる様に努力する方針に基づくものです。収益の大半は下期に発生するため、第3四半期までは赤字となる見込みです。プライベートエクイティ投資の売却活動の成果が後半に集中する傾向があり、下期に、国内ではIPOを、海外ではトレードセールを中心に流動化を見込んでいます。プロジェクト投資は物流倉庫等の短期売却を前提としたプロジェクトが着実に育って来ています。また、長期保有を前提としたものでは、障害者施設やバイオガス発電なども期待のプロジェクトです。これらのプロジェクトの最適な組み合わせを行っていきます。

## 2. 2020年3月期の実績



ハイライト	P5
営業収益・営業原価内訳	P8

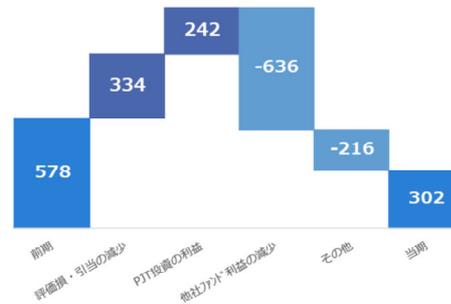
それでは、実績について、前期との比較でご説明いたします。

## 2.2020年3月期の実績-ハイライト P/L



(単位：百万円)	2019/3期	2020/3期	
	金額	金額	増減率
営業収益	2,475	↑ 2,760	11.5%
営業原価	1,188	1,401	17.9%
営業総利益	1,286	1,359	5.7%
販管費	1,109	1,094	△1.3%
営業利益	177	265	49.6%
経常利益	83	140	67.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	578	↓ 302	△47.7%

親会社株主に帰属する当期純利益の増減要因



- ✓ 増収要因：メガソーラープロジェクトの売却件数が増加（4件⇒7件）
- ✓ 減益要因：他社が運営するプライベートエクイティファンドの利益貢献（営業収益・特別利益）が合計636百万円減少

こちらはPLのハイライトです。

営業収益は、11.5%増収の、27億6千万円となりました。その要因は、メガソーラープロジェクトの売却件数が4件から7件に増加したためです。

一方で、親会社株主に帰属する当期純利益は、47.7%減益の3億2百万円となりました。その理由は、他社の運営するプライベートエクイティファンドからの利益が減少したことです。前期は想定よりも早期に他社ファンドの回収が進み大きな利益貢献がありましたが、当期はその反動が出たため、営業収益と特別利益の合計で6億3千6百万円の減益要因となりました。

前期と比べて、評価損や引当金の減少や、プロジェクトの売却益の増加があったものの、他社ファンドの利益の減少を補うまでには至りませんでした。

## 2.2020年3月期の実績-ハイライト B/S



(単位：百万円)	2019/3期末	2020/3期末		
	金額	金額	増減率	主な増減要因
総資産	17,305	<b>15,800</b>	△8.7%	
うち 現預金	5,564	<b>3,920</b>	↓△29.5%	返済△16億円
うち プロジェクト投資 (営業投資有価証券・貸付金)	5,514	<b>5,437</b>	↓△1.4%	投資実行+22億円、分配・償還等-19億円、売却-4億円
うち 戦略投資 (営業投資有価証券)	373	<b>1,005</b>	↑169.6%	投資実行
うち 戦略投資以外のPE投資 (営業投資有価証券(引当後))	4,765	<b>4,282</b>	△10.1%	投資実行+3億円、売却等-7億円、
借入金	9,784	<b>8,166</b>	↓△16.5%	返済△16億円
自己資本	6,840	<b>7,223</b>	5.6%	利益+3億円
現預金+プロジェクト投資△借入金	1,294	<b>1,191</b>	↓△7.9%	

✓ 現預金：借入金の返済により減少  
 ✓ 戦略投資：5件の投資実行により残高が増加  
 ✓ 財務バランス：分配・償還・売却によりプロジェクト投資残高は減少  
 (※現預金とプロジェクト投資営業資産の合計額と、借入金とを比較した財務バランス)

日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料 (2020年5月15日 発表) - 6 -

こちらはBSのハイライトです。

総資産は前期から8.7%減少して、158億円となりました。現預金は、借入金の返済により16億円減少しています。プロジェクト投資は、投資実行を積極的に行った一方で、分配や償還による減少に加え一部を売却したため、その残高は前期から若干減少しました。なお、分配とは、稼働済みのプロジェクトから、プロジェクトの収益や消費税の還付額を原資として、プロジェクトの出資者に分配される資金のことです。また、償還とは、開発が進捗したプロジェクトにおいて金融機関からの資金調達に成功した際に、当社の投資資金の一部が返金されるものです。いずれも、当社の投資後に、プロジェクトの開発や稼働が順調に進捗しているために生じたものです。

戦略投資は、5件の投資実行により残高が増加しました。

## 2.2020年3月期の実績-ハイライト C/F



(単位：百万円)	2019/3期	2020/3期
営業活動によるCF	299	↓ 124
投資活動によるCF	1,224	↓ 147
財務活動によるCF	△2,173	↑ △1,617
CF増減額	△675	△1,358
期末残高	4,082	↓ 2,723

- ✓ 営業CF：124百万円の収入  
投資活動の進捗に伴い投資事業組合への出資による支出が増加
  - ✓ 投資CF：147百万円の収入  
ファンド（投資有価証券）の償還額が減少
  - ✓ 財務CF：1,617百万円の支出  
返済優先の財務対応を改め借入金の返済額を減額したため、支出額は前期から圧縮
- 新規の投資資金と経常的な支払いは投資の回収資金で賄えているが、借入金の返済は手許のキャッシュ残高を減らして行っている状況

次にキャッシュ・フローです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、投資活動の進捗に伴い投資事業組合への出資による支出が増加したため、収入額は、前期から減少し、1億2千4百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、ファンドの償還が減少したことから、収入額は前期から10億円ほど減少し、1億4千7百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済により16億1千7百万円の支出となりました。返済優先の財務対応を改め返済額を減額したため、支出額は前期から圧縮されています。

結果として、キャッシュ・フロー全体では13億5千8百万円の支出超過となり、キャッシュの期末残高は27億2千3百万円となっています。

新規の投資資金と経常的な支払いは投資の回収資金で賄っていますが、借入金の返済は手許のキャッシュ残高を減らして行っている状況です。

## 2.2020年3月期の実績 – 営業収益・営業原価 内訳



(単位：百万円)	合計		プライベートエクイティ投資		プロジェクト投資	
	2019/3期	2020/3期	2019/3期	2020/3期	2019/3期	2020/3期
営業収益	2,475	<b>2,760</b>	1,474	<b>1,104</b>	1,000	<b>1,656</b>
管理運営報酬等	241	<b>199</b>	239	<b>195</b>	1	<b>3</b>
営業投資有価証券売却高	1,746	<b>2,349</b>	865	<b>806</b>	881	<b>1,542</b>
組合持分利益等	429	<b>172</b>	337	<b>87</b>	91	<b>84</b>
その他営業収益	57	<b>40</b>	31	<b>14</b>	26	<b>25</b>
営業原価	1,188	<b>1,401</b>	960	<b>760</b>	228	<b>640</b>
営業投資有価証券売却原価	554	<b>965</b>	325	<b>476</b>	228	<b>489</b>
営業投資有価証券評価損・ 投資損失引当金繰入額	579	<b>245</b>	579	<b>245</b>	-	<b>-</b>
組合持分損失等	49	<b>184</b>	49	<b>33</b>	-	<b>150</b>
その他営業原価	6	<b>5</b>	6	<b>5</b>	-	<b>-</b>
営業総利益	1,286	<b>1,359</b>	514	<b>343</b>	772	<b>1,015</b>

- ✓ プライベートエクイティ投資：減収・減益
  - ・営業収益のうち組合持分利益等が減少：他社が運営するファンドからの利益が減少のため
  - ・営業原価のうち株式の売却原価が増加：投資倍率の高い上場株式の売却が減少したことや、大型未上場株式の流動化を優先した結果、売却損が発生。他方、評価損・繰入額は減少
- ✓ プロジェクト投資：増収・増益
  - ・営業収益のうち売却高が増加：メガソーラープロジェクトの売却件数が増加（4件→7件）
  - ・営業原価のうち組合持分損失等が増加：植物工場の立上げに伴う先行費用が発生

日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料（2020年5月15日 発表）

- 8 -

次に、営業収益と営業原価について、科目別・投資資産別の内訳をご説明いたします。

プライベートエクイティ投資については、営業収益・営業総利益ともに、前期から減少しました。

営業収益の内訳を見ると、「組合持分利益等」が減少しています。他社ファンドからの利益が減少したためです。営業原価の内訳では、「営業投資有価証券売却原価」が増加しました。投資倍率の高い上場株式の売却が減少したことや、売却損が発生したものの、大型未上場株式の流動化を優先して売却を実施したことが増加要因です。一方、「営業投資有価証券評価損」は減少しました。計上した銘柄の投資金額が、前期に比べて少額だったことが、減少の要因です。

プロジェクト投資については、前期から増収増益となっています。

営業収益の内訳のうち、「営業投資有価証券売却高」が増加しているのは、プロジェクトの売却件数が4件から7件に増加したためです。

一方で、営業原価の内訳では、植物工場の先行費用が「組合持分損失等」に計上されました。

### 3. 中期経営計画の進捗状況



中期経営計画の概要	P10
2020年3月期の重点施策	P11
数値計画の達成状況	P13
KPIの進捗状況	P14

次に、中期経営計画の進捗状況についてご説明します。

### 計画の背景となる課題

1. 収益構造が不安定：  
収益の大半をベンチャー投資のキャピタルゲインに依存しているため
2. 財務健全性が低い：  
回収の不確実性が高いPE投資資産の一部を借入金で調達しているため
3. 十分な投資資金が確保できない：  
返済優先の財務対応により収益償還力を超えた返済を継続しているため

### 中期経営計画（2019年3月期からの3か年計画）

- ✓ 既存のPE投資資産の大半を3年間で売却し、利益と資金を確保する
- ✓ 売却によって得た資金で、プロジェクト投資や、「企業への投資」と「プロジェクト（事業）への投資」を組み合わせる「戦略的投資」を行う
- ✓ 流動性の高い資産へと入れ替えを進めるとともに、プロジェクト資産の含み益（将来の安定収益）を積上げる
- ✓ 再生可能エネルギー、スマートアグリ（植物工場等）、ヘルスケア（介護・医療）の3つを事業テーマに選定

こちらが、当社の中期経営計画の概要です。

2019年3月期から2021年3月期までの3年間の計画です。この計画は、3つの課題を改善するために策定されたものです。1つ目の課題は、収益構造が不安定なことです。その要因は、収益の大半をベンチャー投資のキャピタルゲインに依存しているためです。2つ目は、財務健全性が低いことです。その要因は、回収の不確実性が高いプライベートエクイティ投資資産の残高の一部を借入金で調達した資金で賄っているためです。3つ目は、十分な投資資金が確保できないことです。これは、返済優先の財務対応により収益償還力を超えた返済を継続してきたことが要因です。

計画では、これらの課題の解決策として、資産の入れ替えを進める方針です。具体的には、既存のプライベートエクイティ投資資産の大半を3年間で売却します。そして、売却によって得た資金で、再生可能エネルギー等のプロジェクト投資や、「企業への投資」と「プロジェクト（事業）への投資」を組み合わせる「戦略的投資」を行い、その投資残高を積上げる計画です。その結果、流動性の高い資産へと入れ替えが進むとともに、プロジェクト資産の含み益、つまりは将来の安定収益を積上げることができます。

また、当社の強みや外部環境を考慮した結果、再生可能エネルギー、スマートアグリ（植物工場等）、ヘルスケア（介護・医療）の3つを事業テーマに選定しました。その中でも、再生可能エネルギー、スマートアグリに集中して投資を行う計画です。また、この他にも、金融機関からの負債性資金が調達可能な新規事業を創出する計画です。

### 3. 中期経営計画の進捗状況 – 2020年3月期の重点施策 – プライベートエクイティ投資



項目	施策	進捗状況
既存資産の流動化	IPOによる売却益獲得に加え、未上場株式や営業外の資産も流動化を促進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IPO済みの国内株式の売却や、中国の未上場株式の流動化を実現</li> <li>• 第4四半期に見込んでいた株式売却益が大幅に下振れし、期初の業績見込を下方修正</li> </ul>
ファンドの新設	海外進出支援、対日直接投資支援を目的とする2つのファンドを設立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域金融機関と協業して中堅中小企業の海外進出を支援するファンドの募集活動を実施</li> <li>• 対日直接投資の支援ファンドは、投資家との方向性が一致せず、設立に至っていない</li> </ul>
ネットワーク、M&A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社外ネットワーク（国内・アジア）を強化し、グローバル支援体制を構築する</li> <li>• クロスボーダーM&amp;Aを中心としたFA業務への取り組みを開始する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中国では、西安市ハイテク産業区、煙台市投資促進センター、武漢市商務局と協力協定を締結</li> <li>• バンコクでは現地のベンチャーキャピタル、証券会社と協力協定を締結</li> <li>• アジアのビジネスパートナーからの譲渡案件を、当社の国内ネットワークを用いて日本の上場会社に仲介し、譲渡条件を交渉中</li> </ul>
戦略投資	Bankable（金融機関からの負債性資金調達が可能）な新規事業を創出し、プロジェクトへの投資と共に、パートナー企業への戦略投資も行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 障がい者向けグループホームの建設プロジェクトを開始、3件を建設中</li> <li>• 国内のディストリビューションセンター（物流施設）の建設プロジェクトを開始、2件に投資実行</li> <li>• 上記のパートナー企業を含め5社に投資を実行</li> </ul>

日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料（2020年5月15日 発表）

- 11 -

こちらは、中期経営計画の進捗状況を、定性的に振り返ったものです。

計画期間の2年目となる当期に、プライベートエクイティ投資では、4つの重点施策を掲げています。

既存資産の流動化については、IPOによる売却益の獲得に加えて、未上場株式や営業外の資産の流動化も促進する計画でした。これに対する進捗状況は、大幅な未達です。前期にIPO済みの国内株式の売却や、中国の未上場株式の流動化を実現しました。一方、第4四半期に見込んでいた株式売却益が大幅に下振れし、期初の業績見込を下方修正する結果となりました。

ファンドの新設については、2つのファンドの設立を計画していました。このうち、地域金融機関と協業して中堅中小企業の海外進出を支援するファンドについては、募集活動を進めました。一方、対日直接投資の支援ファンドは、投資家との方向性が一致せず、設立に至りませんでした。

ネットワークの強化については、中国の政府関係機関や、バンコクでは現地のベンチャーキャピタルや証券会社と協力協定を締結しました。M&A業務の取り組みも、アジアのビジネスパートナーからの紹介案件を、日本の上場会社向けに提案中です。

戦略投資については、障がい者向けグループホームの建設プロジェクトと、国内の物流施設の建設プロジェクトを、バンカブルな新規事業として創出しました。また、これらのプロジェクトのパートナー企業を含め、5社に戦略投資を行いました。

### 3. 中期経営計画の進捗状況 – 2020年3月期の重点施策 – プロジェクト投資



項目	施策	進捗状況
再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>メガソーラーを最優先として、バイオガス・バイオマスの新規案件にも投資する</li> <li>高採算案件への投資機会は時限性があるため、積極投資を継続する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイオガス発電所の原料となる廃棄物の、中間処理施設のオペレーターに対して投資を実行</li> <li>FIT価格30円台のメガソーラープロジェクト新規案件3件、既存案件1件に投資実行</li> </ul>
スマートアグリ	植物工場1号案件を軌道に乗せ、後続案件に投資する	<ul style="list-style-type: none"> <li>1号工場では、大手外食チェーンを販売先として確保し順調に稼働中。ただし、期末時点で単月黒字化を見込んでいたものの実現しておらず、21年3期末までの単月黒字化を目指す。</li> <li>2号工場への投資は、1号工場の黒字化の目途をつけた後に行う計画</li> </ul>
ヘルスケア	件数を追わず採算性を重視し、介護施設開発案件に選別的に投資する	東京都江東区東雲のプロジェクト1件へ投資実行

こちらは、プロジェクト投資の進捗状況です。

再生可能エネルギーでは、メガソーラーを最優先として、バイオガス・バイオマスの新規案件に投資をする計画でした。これに対し、バイオガス発電の原料となる廃棄物の、中間処理施設のオペレーターに対して投資を実行しました。また、高採算案件への投資機会は時限性があるため、積極投資を継続する方針でした。これに対しては、固定買取価格が30円台のメガソーラープロジェクトに、新規で3件投資を行ったほか、既存案件1件にも追加投資を行いました。

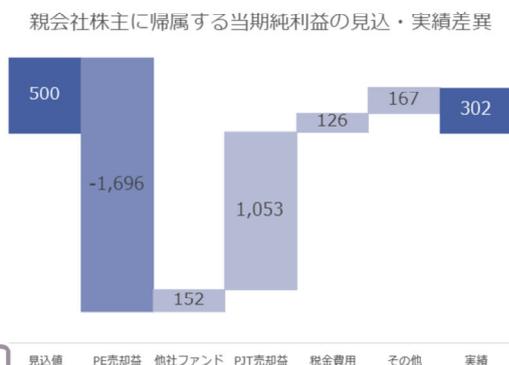
スマートアグリでは、植物工場の1号案件を軌道に乗せ、後続案件に投資する計画でした。1号工場では、大手外食チェーンなどの販売先を確保し、順調に稼働中です。しかしながら、2020年3月までに見込んでいた単月黒字化は実現できておりません。現在は、21年3月末までの黒字化を目指しています。また、2号工場への投資は、1号工場の黒字化の目途をつけた後に、取り組むこととなりました。

ヘルスケアでは、件数を追わず採算性を重視し、介護施設の開発案件に選別的に投資をする計画でした。計画通り、1件の投資を行っています。

### 3. 中期経営計画の進捗状況 – 数値計画の達成状況



単位：百万円	期初業績見込 (2019/5/15発表)		2020年3月期実績		親会社株主に帰属する当期純利益の見込・実績差異
	金額	金額	金額	達成率	
営業収益	3,500	2,760	78.9%		
営業原価	1,600	1,401	87.6%		
営業総利益	1,900	1,359	71.6%		
販管費	1,100	1,094	99.5%		
営業利益	800	265	33.2%		
経常利益	650	140	21.7%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	500	302	60.5%		



#### プライベートエクイティ投資

- IPOを延期した銘柄や、IPOを果たした銘柄の株価下振れが主因となって、株式の売却益が計画を大幅に下振れ
- 投資有価証券の売却による特別利益の計上を含めても、計画の2割程度の達成状況

#### プロジェクト投資

- 植物工場の立ち上げに伴う費用が先行するため赤字の計画としていたが、PE投資の大幅な下振れの状況から、稼働済みメガソーラープロジェクトの売却を実施

こちらは、数値計画の達成状況です。

2020年3月期の実績は、期初の業績見込みと比較して、利益の達成率が60.5%となりました。

プライベートエクイティ投資において、IPOを延期した銘柄や、IPOを果たした銘柄の株価下振れが主因となって、株式の売却益が計画を大幅に下振れたことが、未達の要因です。投資有価証券の売却による特別利益の計上を含めても、計画の2割程度の達成に終わりました。

一方、プロジェクト投資では、植物工場の立ち上げに伴う費用が先行するため赤字の計画としていましたが、PE投資の大幅な下振れの状況から、稼働済みメガソーラープロジェクトの売却を実施しました。しかしながら、PE投資の下振れが想定以上に大きく、また、プロジェクトの売却手続きに想定以上に時間がかかったため、下振れの全てを補うようにプロジェクトの売却を積み増すことはできませんでした。

3. 中期経営計画の進捗状況 – KPIの進捗状況					JAIC
戦略	施策	KPI 2019/3期 実績 (億円)	KPI 2020/3期 実績 (億円)	KPI 2021/3期 目標 (億円)	
プロジェクト投資資産からの安定収益拡大	プロジェクト投資資産残高※1	55	54	90	
	プロジェクト投資資産の累計利益合計額※2	70	58	200	
	現預金とプロジェクト投資資産の合計額と借入金のバランス	+13	+11	+56	
プライベートエクイティ投資資産他の入替	戦略投資等以外の資産の早期流動化・収益化	残高47 (引当後)	残高42 (引当後)	残高10 (引当後)	
	・新規投資用のファンド設立 ・戦略投資の実行	残高3.7	残高10	残高10	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ プロジェクト投資資産を売却してPE下振れを補ったために、プロジェクト投資資産の新規投資実行を進めているが、残高や含み益が増加していない</li> <li>✓ 戦略投資以外のプライベートエクイティ投資資産の流動化・収益化が遅れている</li> <li>✓ 戦略投資の投資実行は順調に進捗し、計画2年目で目標を達成</li> </ul>					
<small>※1：貸付金残高を含む</small> <small>※2：一定の仮定で試算した、当社グループの運営するプロジェクトからの累計利益見込額の合計（割引前）</small>					
日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料（2020年5月15日 発表）					- 14 -

こちらは、KPIの進捗状況です。

右端の2021年3月末までの目標値に対し、2年間の実績を並べています。

上から3つ目までの指標は、2019年3月末と同等か悪化しています。これまでご説明した通り、プロジェクトを売却したことが理由です。

また、4つ目の「プライベートエクイティ投資資産の早期流動化」の実績も、残高は減少傾向にあるものの、目標値との乖離が大きい状況です。これまでご説明した通り、株式の売却が下振れしていることが要因です。

一方、5つ目の指標である戦略投資については、投資実行は順調に進捗し、計画2年目で目標を達成しています。

#### 4. 2021年3月期の事業方針・業績予想



事業方針	P16
新型コロナウイルス感染症の影響	P19
中期経営計画との差異	P20
業績見込値の詳細	P21
将来に関する記述等についてのご注意	P22

それでは、次に、2021年3月期の、「事業の方針と業績予想」についてご説明いたします。

- ✓ PE投資資産の早期流動化・収益化に注力  
中期経営計画2年目までは大きく計画を下振れしているが、重要な課題であることは変わらず  
計画の達成率を少しでも高めるように鋭意努力する
- ✓ バックアッププランとしてのプロジェクト売却  
株式の売却は株式市場や経済環境の動向に大きく左右されるため、その変動をコントロールすることは困難  
株式売却益が下振れた場合には、プロジェクトの売却により一部を補完する
- ✓ 短期売却目的のプロジェクト投資を推進  
これまで売却したメガソーラープロジェクトに替わる資産の残高を早期に増加させるため、今後の投資に実行については、長期保有による安定収益獲得を目的としたプロジェクト投資から、短期（2～3年）での売却を前提としたプロジェクト投資に軸足を移し、長期的・短期的収益の最適な組み合わせを行う

2021年3月期の事業方針は、プライベートエクイティ投資においては、資産の早期流動化・収益化に注力します。 これまでは大きく計画を下振れしていますが、当社にとって重要な課題であることに変わりありません。今後も継続して取り組みを続け、計画の達成率を少しでも高めるように鋭意努力してまいります。

しかしながら、株式の売却は株式市場や経済環境の動向に大きく左右されるため、その変動をコントロールすることは困難です。 今後も、株式売却益が下振れた場合にはプロジェクトの売却により一部を補完すべく対応致します。

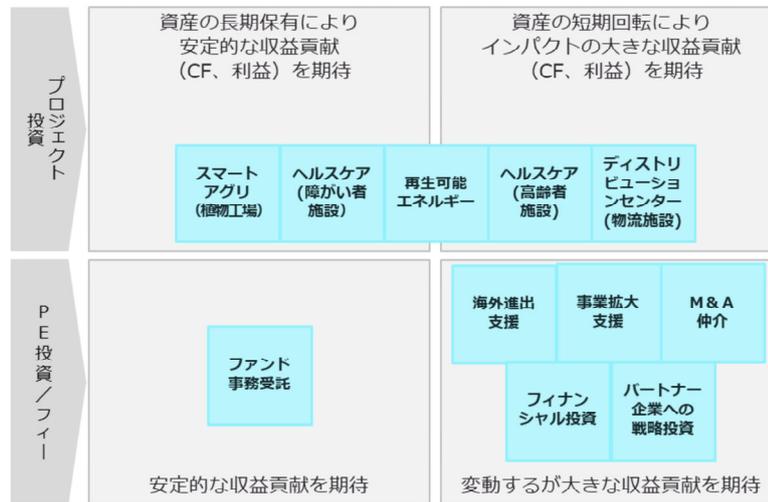
プロジェクト投資については、これまで売却したメガソーラープロジェクトに替わる資産の残高を早期に増加させるため、今後の投資実行については、長期保有による安定収益獲得を目的とした投資から、短期売却を前提としたプロジェクト投資に軸足を移し、長期的・短期的収益の最適な組み合わせを行います。

#### 4. 2021年3月期の事業方針・業績予想-事業方針②



事業方針

収益機会を長期安定収益、短期的収益に区別し、最適な組み合わせを行うことでサステナビリティのある収益構造を構築する



日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料 (2020年5月15日 発表)

- 17 -

こちらの図は、収益機会を、より細かく分類したものです。  
 左上から時計回りにご説明します。

プロジェクト投資のうち、植物工場、障がい者施設、メガソーラー以外の再生可能エネルギーは、これまで同様に、資産の長期保有により安定的な収益貢献を期待する投資と位置付けます。

他方、メガソーラープロジェクトや、高齢者施設、物流施設は、同じプロジェクトでも、投資後2・3年での短期売却と新規投資を繰り返し行うことで資産を回転させ、インパクトの大きな収益貢献を期待する投資と位置付けます。今後は、この分野のプロジェクトに特に注力して投資を行っていく方針です。

また、右下は、プライベートエクイティ投資やM&Aのようなファイ獲得を目的とした業務が該当します。変動幅は大きいものの、発生すれば大きな収益を期待できるという特徴があります。

左下は安定的な収益貢献を期待する業務です。子会社で行っているファンドの事務受託業務が該当します。

#### 4. 2021年3月期の事業方針・業績予想-事業方針③



再生可能 エネルギー	メガソーラープロジェクトについては、これまで以上に採算性を慎重に 検証して投資を実行する
スマートアグリ	2021年3月末までの第1号工場の黒字化を目指す 2号工場への投資は、黒字化の目途が付いた後に行う
ディストリビュー ションセンター	中型から大型の物流施設を対象として積極的に投資を行う プロジェクトの初期段階に投資することで高いリターンを目指す
ヘルスケア	障がい者施設への投資を継続し、パートナー企業を支援する 高齢者施設は案件を厳選して投資を実行する
PE投資	海外進出支援ファンドを組成し、フィー事業に繋げる 既存投資先の成長支援、早期流動化・収益化に向けて取り組む
M & A 仲介	投資案件の開拓の過程で得られるM&Aのニーズを基に、FAとして仲介業務 を行う

こちらは、先ほどご紹介した収益機会を種類別に、取り組み方針をまとめたものです。

再生可能エネルギープロジェクトのうちメガソーラープロジェクトは、採算性の高い案件が減少しつつあります。よって、今後の投資は、これまで以上に採算性を慎重に検証して実施する方針です。

スマートアグリプロジェクトでは、2021年3月末までの第1号工場の黒字化を目指します。2号工場への投資は、1号工場の黒字化にきっちりと目途がついた後に行います。

ディストリビューションセンタープロジェクトでは、中型から大型の物流施設をターゲットとして、積極的に投資を行う方針です。プロジェクトの初期段階、例えば、土地を確保する段階から投資を行うことで、高いリターンを目指します。

ヘルスケアプロジェクトでは、障がい者施設への投資を今後も継続し、パートナー企業の成長を支援します。高齢者施設は、引き続き、案件を厳選して投資を行います。

プライベートエクイティ投資では、当社の強みを活かす分野である、地域金融機関との協業により地域企業のアジア進出を支援するファンドを、これまで募集活動を行ってきた成果として設立します。今後は、ファンドの運営活動を通じて、M&A仲介業務などのフィー獲得にもつなげていきます。

また、既存投資先の成長を支援し、早期の流動化と収益化に取り組めます。

M&A仲介業務では、投資案件の開拓の過程で得られるニーズを基に、早期の成約を目指します。

4. 2021年3月期の事業方針・業績予想  
-新型コロナウイルス感染症の影響



項目	想定されるリスク
上場株式の売却	売却株価の低迷、IPOの延期
未上場株式の売却	買手の資金調達の難航、売却対象企業の業績悪化
プロジェクトの売却	買手の資金調達の難航
投資先企業の評価	投資先企業の経営状態悪化による評価損や引当金の発生
建設中のプロジェクト	建設の中断
売電中のプロジェクト	消費電力量減少に伴う出力抑制の増加
スマートアグリプロジェクト	外食企業への販売額減少
当社の営業活動	新規投資の停滞、投資回収の効率低下

こちらは、新型コロナウイルス感染症により想定されるリスクをまとめたものです。

上場株式の売却においては、株式市場の低迷による売却株価の低下や投資先のIPOの延期が生じるリスクがあります。

未上場株式の売却においては、経済環境の悪化により買手の資金調達が困難となることや、売却対象の投資先企業の業績が悪化することで、見込んでいた売却交渉が成立しなかったり遅延したりするリスクや、売却価格が下落するリスクがあります。

プロジェクトの売却においても、未上場株式と同様に、買手の資金調達が困難となることによるリスクがあります。

既存投資先企業の評価においては、投資先企業の経営状態の悪化により、評価損や引当金が発生するリスクがあります。

建設中のプロジェクトにおいては、政府や自治体の休業要請に伴い建設工事が中断されるリスクがあります。

再生可能エネルギープロジェクトのうち、売電中のプロジェクトにおいては、消費電力量の減少に伴い、出力抑制が増加するリスクがあります。

スマートアグリプロジェクトでは、外食産業向けの販売が顧客の休業により減少するリスクがあります。

当社自身の営業活動については、テレワークの導入により出社人数は約80%減少させており、社内感染リスクの低減に努めています。外部との面談も、現状、原則としてオンラインのみに制限しています。その結果、新規投資の開拓には支障が出ると予想されます。また、投資回収においても活動の効率が低下するリスクがあります。

#### 4. 2021年3月期の事業方針・業績予想 - 中期経営計画との差異



最終目標	2021/3期見込	2021/3期目標	差異
親会社株主に帰属する当期純利益	1.8億円	7億円	△5.2億円
ROE	2.5%	9%	△6.5%

戦略	施策	KPI 2021/3期 見込 (億円)	KPI 2021/3期 目標 (億円)
プロジェクト投資 資産からの安定収 益拡大	プロジェクト資産残高	61	90
	現預金とプロジェクト投資資産 の合計額と借入金のバランス	+26	+56
プライベートエク イティ投資資産他 の入替	戦略投資等以外の資産の早期流 動化・収益化	残高25 (引当後)	残高10 (引当後)
	・新規投資用のファンド設立 ・戦略投資の実行	残高10	残高10

日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料 (2020年5月15日 発表)

- 20 -

こちらは、2021年3月期の業績見込みと中期経営計画の差異です。

新型コロナウイルス感染症の影響は、現段階で顕在化しているものは限定的です。この数値は、今後も新型コロナウイルス感染症の影響が限定的であるという前提に立った数値です。中期経営計画で目指していた水準からは、誠に遺憾ながら下振れする見込みですが、これまでご説明した事業方針を実施し、投資資産の売却で最大限の成果が上がる様に努力することで、2021年3月期の利益は1.8億円、ROEは2.5%を目指していく方針です。

また、それぞれのKPIについても、下の表にある通り、下振れが避けられない見込みです。しかしながら、少しでも計画に近づくよう、鋭意努力してまいります。

なお、KPIのうちプロジェクト資産の含み益については、短期売却目的のプロジェクトへの投資に軸足を移すこととしたため、KPIから除いています。

#### 4. 2021年3月期の事業方針・業績予想 -業績見込値の詳細



単位：百万円	2021/3期 通期見込	2021/3期 2Q累計見込	
営業収益	3,250	850	<b>営業収益の主な内訳</b> 株式売却高 (IPO) 1,350 株式売却高 (IPO以外) 1,650 管理報酬 150 他社ファクト* 75 その他 25
営業原価	1,800	380	
営業総利益	1,450	470	
販管費	1,100	590	<b>営業原価の主な内訳</b> 株式売却原価 (IPO) 370 株式売却原価 (IPO以外) 880 引当・評価損 350 プロジェクトからのコスト 100 他社ファクト* 100
営業利益	350	△120	
経常利益	200	△190	
親会社株主に帰属する当期純利益	180	△210	
ROE	2.5%	-	

- ✓ 営業収益32.5億円、利益1.8億円
- ✓ 上期・第3四半期累計は赤字の見込み
- ✓ 下期に国内IPOと中国トレードセールによる株式売却益を見込む  
プロジェクトの売却は現時点では見込まず

こちらは、2021年3月期の業績見込値の詳細です。

営業収益は32.5億円、利益は1.8億円を見込んでいます。

収益の大半は下期に計上し、上期や、第3四半期までは赤字となる見込みです。

国内でのIPOや中国での未上場株の売却により、株式の売却益を獲得する方針であり、プロジェクトの売却は見込んでおりません。

4. 2021年3月期の事業方針・業績予想  
- 将来に関する記述等についてのご注意



- ✓ 業績予想につきましては、当社グループが展開するプライベートエクイティ投資はその事業特性上株式市場等の変動要因による影響が極めて大きく、加えて昨今の変動の激しい環境下においては合理的な業績予想が困難なため、当社は業績予想を行っておりません。
- ✓ しかしながら、投資家及び株主の皆さまの利便に資するべく、業績予想に代えて、ある一定の前提を元に策定した「従来連結基準による見込値」を、数値の確度は低いものの、参考情報として開示しております。
- ✓ なお、当該「従来連結基準による見込値」をはじめとする本資料に掲載されている全ての将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報及び一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の数値は様々な要因により記述されている内容とは大きく異なる可能性があります。

最後に、業績見込値をご利用になるうえでの注意事項についてご説明いたします。

当社では、その事業特性上、合理的な投資損益の見込みが立てづらいために、業績予想は開示しておりません。しかしながら、少しでも投資家の皆さまのご参考になればと考え、一定の前提のもとで策定した「従来連結基準の業績見込値」というものを、あくまで参考情報として、公表しております。

前提条件については決算短信に記載しておりますので、皆さまには、この前提条件を踏まえて見込値をご利用頂ければと存じます。

また、今後開示すべき事象が生じた場合には、適時適切に開示をしております。

私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

5. 営業活動の状況



プライベートエクイティ投資	P24
プロジェクト投資	P27

5. 営業活動の状況 - プライベートエクイティ投資 投資実行



# 投資実行 合計 12社、12億円

うち、戦略投資 5社



**スマートソーラー(株)**

事業内容：メガソーラー発電所事業、公共・産業用スマートシティ事業、住宅用太陽光発電事業



**KICホールディングス(株)**

事業内容：ディストリビューションセンター（物流施設）の開発、ファイナンス、管理計画立案、アセットマネジメント



**MD-Farm(株)**

事業内容：イチゴの閉鎖型植物工場プラントの開発・販売、農業コンサルティング等



**ソーシャルインクルー(株)**

事業内容：障がい者向けグループホーム「ソーシャルインクルーホーム」の運営



**(株)森久エンジニアリング**

事業内容：植物工場の開発・企画・建設・運営、ブランド野菜「モーベル」の生産

5. 営業活動の状況 – プライベートエクイティ投資 IPO実績



(株)ステムリム

上場市場：東証マザーズ (4599)  
上場日：2019年8月9日



(株)ピー・ビーシステムズ

上場市場：福証Q-Board (4447)  
上場日：2019年9月12日



Fangdd Network Group Ltd.

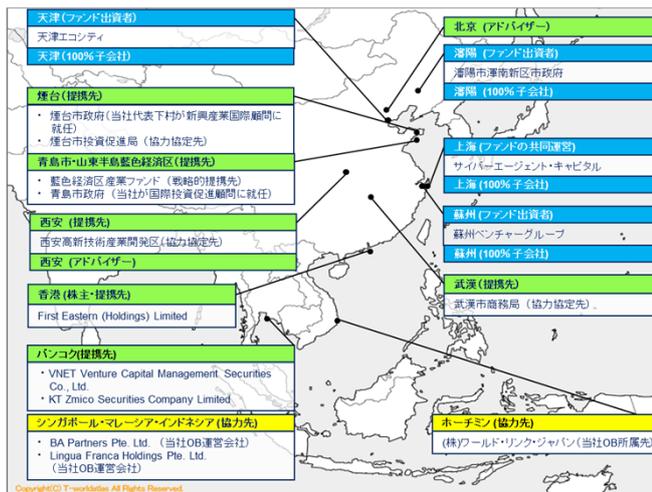
上場市場：NASDAQグローバル (DUO)  
上場日：2019年11月1日



(株)リグア

上場市場：東証マザーズ (7090)  
上場日：2020年3月13日

5. 営業活動の状況 – アジアネットワーク



- ✓ 当社の強みであるアジアのビジネスネットワークをさらに強化し、M&A事業の立上げや投資先企業の支援に活用
- ✓ 中国では、西安市ハイテク産業開発区、煙台市投資促進センター、武漢市商務局と協力協定を締結
- ✓ タイでは、現地のベンチャーキャピタル、証券会社と協力協定を締結

## 投資実行 10件、合計21.5億円



### 再生可能エネルギー

FIT30円台の太陽発電施設4件  
バイオガス発電所に併設する廃棄物処理施設運営者



### スマートアグリ

植物工場の運営資金を追加投資



### ヘルスケア

東京都江東区東雲の大型高齢者向け施設



### ディストリビューションセンター

国内物流施設の新規建設プロジェクト2件



### その他

収益不動産（国内の商業ビル）への中期投資

✓ 上記の他、障がい者向けグループホームプロジェクト1件に貸付を実行

## JAICソーラー2号投資事業有限責任組合

ファンド運営者	JAIC・キャピタル・パートナーズ株式会社（当社100%子会社）	
ファンド出資者 及び出資比率	無限責任組員	JAIC・キャピタル・パートナーズ株式会社（出資比率0.07%）
	有限責任組員	当社（出資比率0.07%）、その他2社（出資比率99.85%）
ファンド総額	1,359百万円	
投資対象	稼働済みメガソーラープロジェクト	
設立日	2020年3月4日	
組入プロジェクト	当社グループから6件（合計14.2MW）のプロジェクトを譲渡して組み入れ	

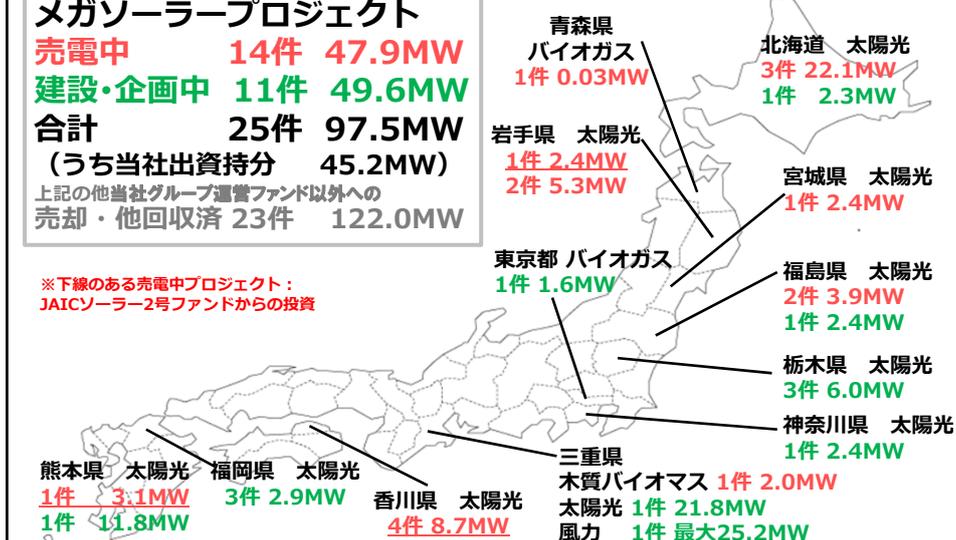


5. 営業活動の状況－プロジェクト投資  
再生可能エネルギープロジェクト一覧 (2020年3月末)



**メガソーラープロジェクト**  
**売電中** 14件 47.9MW  
**建設・企画** 11件 49.6MW  
**合計** 25件 97.5MW  
 (うち当社出資持分 45.2MW)  
 上記の他当社グループ運営ファンド以外への  
**売却・他回収済** 23件 122.0MW

※下線のある売電中プロジェクト：  
JAICソーラー2号ファンドからの投資



※各プロジェクトに対する当社の出資比率はプロジェクト毎に異なるため、当社の投資額や当社に帰属する売電収益の金額は、必ずしもプロジェクトのMW数に連動しておりません。

5. 営業活動の状況－プロジェクト投資  
ヘルスケアプロジェクト (障がい者向けグループホーム)



パートナー企業のソーシャルインクルーと3件のプロジェクトを開始



静岡県浜松市のグループホーム



- 静岡県浜松市、栃木県宇都宮市、広島県広島市でプロジェクトを開始
- ソーシャルインクルー(株)にも投資を行い、その成長を支援

※グループホーム：  
グループホームでは、10名から20名程度の身体・知的・精神障がい者が、24時間常駐の世話人の支援を受けながら共同生活をします。従来の障がい者向け入所施設に比べ小規模なため、入居者ひとりひとりのニーズに沿った支援が可能となります。また、入居の効果として、孤立の防止、生活への不安の軽減、共同生活による身体・精神状態の安定などが期待されています。

5. 営業活動の状況－プロジェクト投資  
 ディストリビューションセンター(物流施設)プロジェクト



パートナー企業のKICホールディングスと2件の施設を開発中

KIC越谷ディストリビューションセンター



完成予想図

所在地	埼玉県越谷市大里下371番地 他
アクセス	東北自動車道「浦和IC」より 約6km、東武スカイツリーライ ン「大袋駅」より約1km
延床面積	11,250m <sup>2</sup> 、地上4階建
竣工予定	2021年9月

KIC厚木ディストリビューションセンター



完成予想図

所在地	神奈川県厚木市下衣知字中河 原673-1他
アクセス	圏央自動車道「圏央厚木IC」 から約1.46km、JR相模線 「海老名駅」から約1.8km
延床面積	10,890m <sup>2</sup> （予定）、地上2 階建
竣工予定	2022年2月

6. 参考情報



プロジェクト投資の案件一覧	P33
プライベートエクイティ投資 投資残高内訳	P35
ファンド運用残高・投資残高・営業投資有価証券残高の関係	P36
主要データの推移	P37
営業収益・営業原価 内訳	P39
投資領域	P40
JAICの強み	P41
収益構造	P42
会社概要	P44

(参考情報)

### プロジェクト投資 案件一覧-1 (2020年3月末)



プロジェクト種類		発電所名/所在地	発電容量 (MW)	プロジェクト進捗状況	FIT (税抜、円)	アビリティ総額	
メガソーラー発電	1	熊本県球磨郡錦町 (※)	3.1	売電中 (2015年12月売電開始)	40	約10.5億円	
	2	野間池ソーラー発電所 (※)	2.4	売電中 (2017年5月売電開始)	36	約8億円	
	3	福島猪苗代太陽光発電所	1.2	売電中 (2017年9月売電開始)	36	約3.4億円	
	4	御田神辺池ソーラー発電所 (※)	1.5	売電中 (2017年9月売電開始)	32	約5億円	
	5	岩手一関ソーラーパーク (※)	2.4	売電中 (2018年1月売電開始)	36	約8億円	
	6	帯広ソーラーパーク	4.4	売電中 (2018年3月売電開始)	40	約22億円	
	7	中王田池ソーラー発電所 (※)	2.4	売電中 (2018年4月売電開始)	36	約8.6億円	
	8	一関市吉高太陽光発電所	2.6	売電中 (2018年6月売電開始)	36	-	
	9	東王田池ソーラー発電所 (※)	2.4	売電中 (2018年7月売電開始)	36	約8.6億円	
	10	一関市鈴ヶ沢太陽光発電所	2.7	売電中 (2018年10月売電開始)	36	-	
	11	加美ソーラーパーク	2.4	売電中 (2018年10月売電開始)	36	約9.6億円	
	12	北海道紋別市弘道太陽光発電所	15.7	売電中 (2020年2月売電開始)	40	約66億円	
	13	北海道亀田郡七飯 (ななえ) 町	2.0	売電中 (2020年3月売電開始)	36	-	
	14	三重県	21.8	建設・企画中	24	-	
	15	福島県	2.4	建設・企画中	32	-	
	16	福島県双葉郡広野町	2.7	売電中 (2020年2月売電開始)	40	-	
	17	熊本県	11.8	建設・企画中	36	-	
	18	北海道	2.3	建設・企画中	40	-	
	19	神奈川県	2.4	建設・企画中	32	-	
	20~22	福岡県 (3カ所)	合計2.9	建設・企画中	36	-	
	23	栃木県	2.0	建設・企画中	36	-	
	24	栃木県	2.0	建設・企画中	32	-	
	25	栃木県	2.0	建設・企画中	32	-	
	合計97.5MW (うち当社出資持分 45.2MW)						

(参考情報)

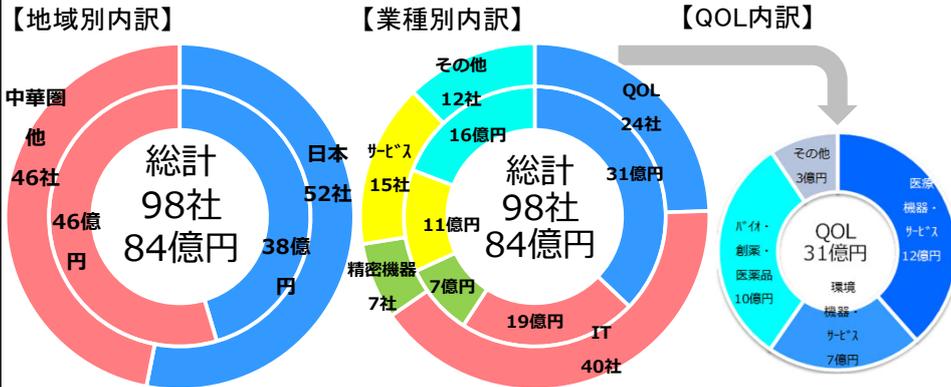
### プロジェクト投資 案件一覧-2 (2020年3月末)



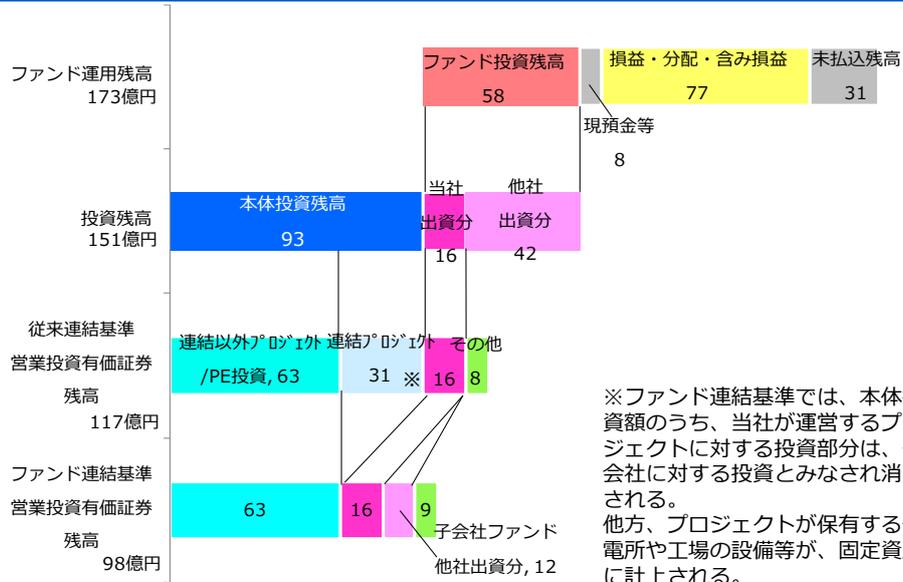
プロジェクト種類		発電所名/所在地	発電容量 (MW)	プロジェクト進捗状況	FIT (税抜、円)	アビリティ総額
木質バイオマス発電		三重県松阪市	2.0	売電中 (2018年1月売電開始)	-	-
バイオガス発電	1	東京都	1.6	建設・企画中	39	-
	2	青森東北町発電所	0.03	併設する廃棄物中間処理施設のオペレーター 売電中 (2018年11月売電開始)	39	-
風力発電		三重県	最大25.2	建設・企画中	22	-
植物工場		兵庫県丹波篠山市	-	操業中 (2019年3月操業開始)	-	約7億円
高齢者向け施設		東京都江東区東雲	-	建設中	-	-
障がい者向けグループホーム	1	静岡県浜松市	-	建設中	-	-
	2	栃木県宇都宮市	-	企画中	-	-
	3	広島県広島市	-	建設中	-	-
商業ビル		愛知県	-	営業中 (既存ビルへの投資)	-	-
物流施設	1	埼玉県越谷市	-	建設中	-	-
	2	神奈川県厚木市	-	建設中	-	-

※: JAICソーラー2号投資事業組合から投資しているプロジェクト。

# 投資残高 98社、合計84億円



1社当たり平均投資金額：  
 日本73百万円、中華圏他99百万円/QOL130百万円、IT46百万円



(参考情報)

## 主要データの推移 ①



## ・ファンドの状況、投資の状況

(単位：百万円)	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3
ファンド設立・増加額	-	5,201	500	1,000	2,000	1,359
ファンド運用残高	43,897	39,335	28,753	19,150	16,494	17,390
うち 当社グループ出資額		14,004	9,427	5,867	5,344	5,163
投資実行額 (プライベートエクイティ投資)	1,470	1,304	1,131	1,205	136	1,224
投資残高 (プライベートエクイティ投資)	18,385	15,061	11,981	10,398	8,437	8,405
投資実行額 (プロジェクト投資)	1,257	2,788	3,184	2,681	3,612	2,150
投資残高 (プロジェクト投資)	1,337	3,722	4,576	3,582	5,514	6,696

(参考情報)

## 主要データの推移 ②



## ・業績、財務状況

(単位：百万円)	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3
<b>業績</b>						
営業収益	4,532	4,043	3,926	5,403	2,475	2,760
営業総利益	882	1,554	2,176	2,328	1,286	1,359
販売費及び一般管理費	1,433	1,472	1,339	1,311	1,109	1,094
営業利益	△550	82	836	1,017	177	265
経常利益	△610	612	726	954	83	140
親会社株主に帰属する当期純利益	△850	597	553	874	578	302
<b>財務状況</b>						
現預金	9,437	8,202	6,213	7,308	5,564	3,920
営業投資有価証券・貸付金 (プロジェクト投資)	1,337	3,722	4,081	3,582	5,514	5,437
営業投資有価証券 (戦略投資投資)	-	100	100	373	373	1,005
引当後 営業投資有価証券 (戦略投資以外のプライベートエクイティ投資)	10,364	8,126	7,256	5,657	4,765	4,282
借入金	20,193	16,910	14,128	11,954	9,784	8,166
自己資本	3,373	4,976	5,686	6,545	6,840	7,223
総資産	24,396	22,680	20,305	19,220	17,305	15,800

(参考情報)

## 営業収益・営業原価 内訳



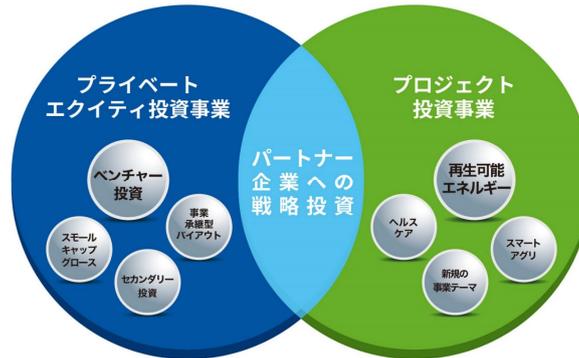
(単位:百万円)	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	増減率(%)
<b>1. 投資事業組合等管理業務</b>							
管理運営報酬等	571	441	364	277	241	199	△17.6%
成功報酬	63	288	101	86	-	-	-
営業収益	634	729	466	364	241	199	△17.6%
営業原価	-	-	-	-	-	-	-
営業総利益	634	729	466	364	241	199	△17.6%
<b>2. 投資業務</b>							
営業投資有価証券売却高	3,651	2,954	2,275	3,219	1,746	2,349	34.5%
組合持分利益等	193	345	1,159	1,677	429	172	△60.0%
営業収益	3,844	3,300	3,434	4,897	2,176	2,521	15.9%
営業投資有価証券売却原価	1,767	1,863	1,423	2,469	554	965	74.3%
営業投資有価証券評価損・ 投資損失引当金繰入額	1,704	569	274	562	579	245	△57.6%
組合持分損失等	168	47	46	36	49	184	274.3%
営業原価	3,640	2,481	1,744	3,069	1,182	1,395	18.0%
営業総利益	203	818	1,690	1,827	993	1,125	13.3%
<b>3. その他</b>							
営業収益	53	13	25	142	57	40	△30.2%
営業原価	9	7	6	5	6	5	△8.0%
営業総利益	44	5	19	136	51	34	△32.9%
<b>合計</b>							
連結営業収益	4,532	4,043	3,926	5,403	2,475	2,760	11.5%
連結営業原価	3,650	2,488	1,750	3,074	1,188	1,401	17.9%
連結営業総利益	882	1,554	2,176	2,328	1,286	1,359	5.7%

日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料 (2020年5月15日 発表)

- 39 -

(参考情報)

## 投資領域



### プライベートエクイティ投資

成長性の高いベンチャー企業やスモールキャップ企業、事業承継問題を抱える中小・中堅企業に対し成長資金を投資します。  
投資後は、当社が日本とアジアに有するリソースを活用して、企業の成長戦略を支援します。

### 戦略投資

当社の注力する事業テーマに関連する企業に、戦略的な投資を行います。  
投資後は、当社が事業上のパートナーとなり、事業での協業を通じて、資金支援や営業支援を行います。

### プロジェクト投資

メガソーラーを始めとする再生可能エネルギーや、介護施設などのヘルスケア、植物工場などのスマートアグリ、物流施設のディストリビューションセンタープロジェクトに投資をしています。  
プロジェクトファイナンスによる融資資金を活用して投資の採算性を追求します。

日本アジア投資株式会社 2020年3月期 期末決算補足資料 (2020年5月15日 発表)

- 40 -

### JAICの強み



投資候補となる企業やプロジェクトの発掘を通じて、専門性の高い、業界の最先端の動向を把握しています。

最先端の  
業界情報収集力

アジアでの歴史

JAIC

ファイナンス  
スキーム構築力

ベンチャー企業との  
ネットワーク

1981年に経済同友会を母体に設立されて以来、35年に亘り日本とアジアの経済交流に貢献し、アジアでの高い知名度を有しています。

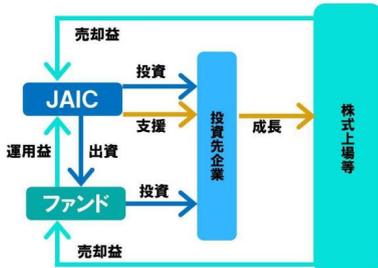
国内外で300社超の上場実績を有し、これまでの投資活動を通じて、多数のベンチャー企業と親密な関係を構築しています。そのネットワークを、投資先企業の支援や、当社が新規事業テーマを開拓する際のアライアンスに活用します。

国内外で3,300億円の累計投資実績を有しています。プロジェクト投資事業では、当社からの投資資金だけでなく、プロジェクトファイナンスなどの融資資金も交えた調達スキームを構築しています。

### 収益構造 - 投資業務



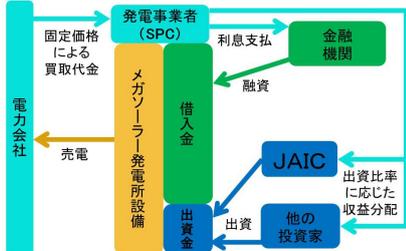
#### ●投資業務：プライベートエクイティ



投資資金は、  
・ J A I C 自身の手元資金からの拠出  
・ ファンドを通じて国内外のファンド出資者から運用を委託された資金の2通りがあります

ファンドには、JAIC自身も一部出資し、出資比率に応じた運用益を獲得します。

#### ●投資業務：再生可能エネルギープロジェクト



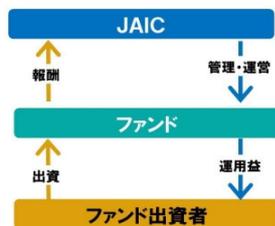
発電事業者は、発電所建設資金を、  
・ J A I C、他の投資家の出資金  
・ 金融機関からの借入金  
の2通りで調達し、発電所を保有します。

発電した電力は、固定価格で電力会社に買い取られます  
J A I C等の投資家は、出資比率に応じて、売電を源泉とした安定収益を獲得します

### 収益構造 - ファンド管理業務



#### ● 投資事業組合等（ファンド）の管理業務



ファンドの管理業務では、

- ・ 経常的な管理・運営に対して受領する管理報酬
- ・ ファンドのパフォーマンスに応じて受領する成功報酬

の2種類の報酬があります

### 会社概要 (2020年3月末現在)



商号	日本アジア投資株式会社	(略称) JAIC
本社所在地	東京都千代田区神田錦町三丁目11番地	
設立年月日	1981年7月10日	
資本金	5,426百万円	
株式上場市場	東京証券取引所 市場第一部	(証券コード: 8518)
従業員数	単体20名/連結38名	
事業領域	プライベートエクイティ投資、プロジェクト投資	
役員	取締役会長 (独立社外)	川俣 喜昭 : 取締役会議長
	代表取締役社長	下村 哲朗
	取締役 (執行役員)	八田 正史
	取締役	大森 和徳 : 監査等委員長
	取締役 (独立社外)	安川 均 : 監査等委員
	取締役 (独立社外)	沼波 正 : 監査等委員
	取締役 (独立社外)	片桐 春美 : 監査等委員

# JAIC

## 日本アジア投資株式会社

〒101-8570 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 精興竹橋共同ビル

代表 T e l (03) 3259-8518 Fax (03) 3259-8511

<http://www.jaic-vc.co.jp>

I R に関するお問合せ先：

執行役員 岸本

管理グループ 丸山

I R に関するお問合せアドレス：ir@jaic-vc.co.jp

(ご注意) 本資料に記載された事項は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。本資料に含まれる意見や予測などについては、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご留意下さい。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。なお、本資料内の業績数値は全て従来連結ベースにて表示しております。